

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

6月4日にエプソムで行われたG1英國ダービーを制したハーザン(牡3歳、父シーザースターズ)。これが実に5度目のダービー制覇という輝かしい実績を誇る馬主のアガ・カーン4世が、今回のこのコラムの主役である。

様々な肩書をもつアガ・カーン4世だが、敢えて本業を特定するとすれば、イスラム教(ザーリ派)の第49代イマーム(精神的支柱)と御紹介するのが本筋であろう。1957年、祖父にある第48代イマームのアガ・カーン3世亡くなると、イマームの称号を引き継いだのが、アガ・カーン3世の孫にあるアガ・カーン4世だつた。アガ・カーン3世には、アガ・カーン4世の父であるアリ・カーンという後継者がいたのだが、この男が米国のハリウッドに居住し複数の女優たちと浮名を流すといふ遊び人で、この者には跡は託せないと考えたアガ・カーン3世が後継に指名したのが、当時ハーバード大学に通っていた孫のアガ・カーン4世だったのである。

そして、父のアリ・カーンに遺されたのが、英國でリーディングオーナーの座に就くこと13回という、20世紀を代表するホースマンだったアガ・カーン3世の競馬組織だった。

しかし、弱冠20歳にしてとんでもないポジションに就いたアガ・カーン4世だったが、わずか3年後の1960年、アリ・カーンがサンクル一競馬場の近くで自動車

事故を起こして49歳で急逝。アガ・カーン4世は、競馬事業も引き継ぐことになつた。ところが、父に劣らぬ競馬好きだったアリ・カーンと違つて、当時のアガ・カーン4世は競馬にほとんど興味がなく、実際にこの時アガ・カーン4世は、牧場も馬も全部処分すると発表して世界の競馬サークルを驚愕させている。だが、彼の持つ世界的良血が、例えはこぞつて北米に流出などしては大変なことになると危惧した欧洲の主立つホースマンたちが、みんなしてアガ・カーン4世を説得。複数持つていた牧場の幾つかは売却したものの、取り敢えずは競馬の世界に手を染めてみたところ、なんと馬主となつて3か月目に、所有馬シャユルロットヴィルが仏ダービーに優勝。その後も同馬がパリ大賞を、ブティエトワールがコロネーションCを、ヴェンチュアがセントジエームスパレスSとセックスSを、シェンショーンがアスコットGCとサンクル一大賞を制し、いきなり仏国リーディングオーナーとなつてしまつたのである。これですから競馬に嵌つてしまつたアガ・カーン4世は半世紀以上が経過した今も、オーナーブリーダーとして精力的に活動を続けているのである。

現在所有する繁殖牝馬の数は、娘のザーラ妃名義のものを含めて、およそ200頭。これらを、仏国と愛国に持つ牧場に分散させて生産活動を行つてゐる。一大組織ではあるが、しかし、世界を見渡せば

事故を起こして49歳で急逝。アガ・カーン4世は、競馬事業も引き継ぐことになつた。ところが、父に劣らぬ競馬好きだったアリ・カーンと違つて、当時のアガ・カーン4世は競馬にほとんど興味がなく、実際にこの時アガ・カーン4世は、牧場も馬も全部処分すると発表して世界の競馬サークルを驚愕させている。だが、彼の持つ世界的良血が、例えはこぞつて北米に流出などしては大変なことになると危惧した欧洲の主立つホースマンたちが、みんなしてアガ・カーン4世を説得。複数持つていた牧場の幾つかは売却したものの、取り敢えずは競馬の世界に手を染めてみたところ、なんと馬主となつて3か月目に、所有馬シャユルロットヴィルが仏ダービーに優勝。その後も同馬がパリ大賞を、ブティエトワールがコロネーションCを、ヴェンチュアがセントジエームスパレスSとセックスSを、シェンショーンがアスコットGCとサンクル一大賞を制し、いきなり仏国リーディングオーナーとなつてしまつたのである。これですから競馬に嵌つてしまつたアガ・カーン4世は半世紀以上が経過した今も、オーナーブリーダーとして精力的に活動を続けているのである。

現在所有する繁殖牝馬の数は、娘のザーラ妃名義のものを含めて、およそ200頭。これらを、仏国と愛国に持つ牧場に分散させて生産活動を行つてゐる。一大組織ではあるが、しかし、世界を見渡せば

これよりも大きな生産組織は複数ある中で、仏オーケス歴代最多の7勝、仏ダービー7勝、愛ダービー5勝、凱旋門賞4勝というのは、卓越した実績と評価されている。

アガ・カーン4世と英國競馬と言えば、有名なのが1989年の英オーケスに端を発したボイコット騒動である。アガ・カーン4世の所有馬で、この年のオーケスで1着入線したアリーサから、レース後のドーピング検査で禁止薬物が出て、アリーサが失格処分に。これに激怒したアガ・カーン4世は、当時英國に置いていた全ての現役馬を他国に転厩させたばかりか、その後5年間にわたりて所有馬を一切英國のレースに出走させないという、徹底的なボイコットを行つたのである。

そんな時代を経て、81年のシャーガー、86年のシャラスター、88年のカヤージ、00年のシンダーに続き、今年のハーザンで5度目のダービーを手中にしたアガ・カーン4世。1930年のブリーメ、35年のバーラム、36年のマームード、48年のマイラヴ、52年のタルヤーと、5度にわたりて英國ダービーを制したアガ・カーン3世の記録に肩を並べたわけで、90歳を迎えたエリザベス女王からトロフィーを受け取る79歳のアガ・カーン4世の顔が、まさに綻んでいたのも、当然なのであった。